

☆ 倉敷昆虫館開館記念号 ☆

倉敷昆虫館の開館 にあたって

重 井 博

去る 11 月 3 日文化の日、テレビ・ラジオ・新聞紙上にぎわした大見出し「同好会員の手で昆虫館誕生」これこそ倉敷昆虫館の性格を端的に物語るものです。

同好会員が永年におたつて採集してきた多数の標本を一堂に集めて分類整理し、「岡山県の昆虫



相か居ながらにして展望できれば」という私共昆虫に興味をもつ者の多年の夢が実現したのも会員協力の賜であり、科学的研究は多くの人々の共同研究の集積によつて始めて輝かしい成果が得られるものだということも、今更のように痛感させられたわけでもあります。

今後も分布の調査、生態の観察を很よく推進し、昆虫館の充実とその公開によつて、地方文化の向上に大いに活躍しようではありませんか。

倉敷昆虫館について

小野 洋

倉敷に昆虫館が誕生した。平前、雲南の街並みには農業生物研究所、天文台などの研究専門機関の他に、博物館としては岡山道の如く著名な美術館、歴史の部門に属するものが、かなりそそっているが、今回更に初めて科学博物館の範疇に属するものが、新たにそのグループに加わったわけで、倉敷はこれらに、堂々たる姿を取り上げて、極めて大きな特色を有する地方都市として、全国的にも稀な存在であろう。また、倉敷の歴史は、日本各博物館の中の博物館の一つであるが、こういった昆虫専門館も、倉敷には他にないことをいえる。しかしながら、倉敷昆虫館のように、同好会組織が主体的な役割を担う、そのメンバーによつて自然に成り立ち、別荘が行なわれるという形態のものは、ほとんど見られず、珍しい存在である。

倉敷の昆虫館は、先にアメリカでは飛騨館に並ぶところの新しい形態の村字、平前研究等を指し示せる博物館は、本邦ではまだほとんど見ることができず、まことにおせまつな現状で、その半信半疑は、最も重いものから、科学博物館は学術的、かつ定期を越えている。

昆虫館は、このような時に産声を上げたわけで、いかに小さやかであつても当然このような新しい考え方が底に流れるものに育てられることが望まれるところである。しかしまだゆつくりと小さな歩みを開始したばかりであるので、そのことは将来の大きな夢としてえがきながら、一步一步を階段に昇つて行きたいものである。

要するに、昆虫そのもの、或は管理方法などの研究活動がかなりすすめられ程度充実した後で、往々学術的な活動に傾けたいのが私達の本意ではあつたが、当地方におけるこの種の博物館の公開は、かたから地域社会からの強力な要望があり、待望久しきものがあつたので、一般への啓蒙の意味で収斂し、現存の標本を急遽整備したものである。

将来は県下を中心とした昆虫相の調査研究、生態研究などを含めた多角的な研究活動をも活発化して行き、内容を充実して、効果的にその機能を発揮できる方向に進めるようお互いにこれから努力しなければならぬ。

ともあれ、かつて「昆虫お国じまん田陽の巻〔田陽地方の昆虫相〕」(新昆虫9巻10巻20~23頁)での結びに引き出された昆虫館の夢が、重井館長さんをはじめとして、多くの方々の御協力、今ここに立派な姿で実現し、本当のお国じまんができたわけで、皆さんで心から大いに祝福したいものである。



○ 開館当日の記念撮影

11月3日入館者がようやくしてたえた。夕やみ迫る頃昆虫館前に勢ぞろいして撮影した。この後で研究室において、顧問の先生方ととり回りの記念懇談会が催された。

大佐町の蝶目録

赤 枝 一 弘

大佐町は新見市によつて、中央を切断された東側の阿哲郡全部である。筆者はこの地で3年目を迎えたわけであるが、この間別に新発見もしなかつたが、当地はすでに早くから注目され、青野、広瀬氏等の記録があり、又昨年大佐中の高橋君の目録等も出されたので、それ等に私の知見を加え、この際目録を編集してみるのも意味があると考えられるので、すずむし紙上を借りて発表させていただく。

Tamalia Hesperialae セセリチヨウ科

1) *Erynnis montanus* ミヤマセセリ

あまり多くない。雌山等で採れる。

2) *Dainio tethys* ダイミヨウセセリ

各地にかなり普通に見られる。

3) *Chaspedon benjanini* アオバセセリ

大佐山附近に多い。布瀬地区でもとれる。

4) *Leptalina unicolor* ギンイチモンジセセリ

セセリチヨウ科でもかなり少い種の部類に入るが雌山 1958. 8. 7 青野 すずむしの記録があり、又備北科学によると大佐山にも多いという。

5) *Aeronautes inachus* ホシチャバネセセリ

本州では前種よりはるかに分布が広いが、少い種である。

雌山 1958. 8. 7 青野 すずむし の記録がある。
大井野 高橋 備北科学

6) *Thoressa naria* コチャバネセセリ 各地に普通7) *Isoteinon lamprospilus* ホソバセセリ あまり多くない。8) *Ochlodes venata* コキマダラセセリ

本州では次種よりはるかに分布がせまく、又同定も困難で注意を要す。

雌山 1958. 8. 7 青野 すずむしの記録がある。

9) *Ochlodes ochracea* ヒメキマダラセセリ

山地帯には普通の種であり、当地でも大佐山等の草原で採れる。

10) *Potanthus flavus* キマダラセセリ 各地でとれる。11) *Polytremis pellucida* オオチャバネセセリ 各地に普通12) *Pelopidas nuthias* チャバネセセリ 各地に普通13) *Pelopidas jansonis* ミヤマチャバネセセリ 少い種である。次の記録がある。

雌山 1958. 6. 24 青野 すずむし

大佐山 1958. 7. 23 広瀬 すずむし



- 14) *Thymelicus leoninus* スジグロチャバネセセリ
 次種より分布はるかに少く、又次種との区別は困難である。
 市倉峠 1958. 8. 7 青野 すずむし の記録がある。
- 15) *Thymelicus sylvaticus* ヘリグロチャバネセセリ 各地に多い。
- 16) *Parnara guttata* イチモンジセセリ 各地に多い。
 Familia Papilionidae アゲハチョウ科
- 17) *Parnassius glacialis* ウスバシロチョウ
 大佐山、大井野等で見られる。
 大佐山 1961. 5 目撃 赤枝
 大佐中には標本もある。
- 18) *Byasa alcinous* ジャコーアゲハ 少い
 布瀬 1962. 6 目撃 赤枝
- 19) *Graphium sarpedon* アオスジアゲハ 各地に普通
- 20) *Papilio machaon* キアゲハ 各地に多い。
- 21) *Papilio xuthus* アゲハ 各地に多い。
- 22) *Papilio protenor* クロアゲハ 各地に普通
- 23) *Papilio macilentus* オナガアゲハ 各地に普通。
- 24) *Papilio helenus* モンキアゲハ
 あまり多くない。手もとには次の標本がある。布瀬 1961. 5. 26 赤枝
 布瀬 1962. 5. 31 赤枝
- 25) *Papilio bianor* カラスアゲハ 各地に普通
- 26) *Papilio maackii* ミヤマカラスアゲハ
 少いが大井野方面で採れる。
 Familia Pieridae シロチョウ科
- 27) *Eurena hecabe* キチヨウ 各地に普通
- 28) *Eurena laeta* ツマグロキチヨウ
 前種より少いが各地でとれる。
- 29) *Gonepteryx mhaguru* スジボンヤマキチヨウ
 少いが各地で採れる。
- 30) *Colias erate* モンキチヨウ 各地に普通
- 31) *Anthocaris scolymus* ツマキチヨウ
 早春採れるが多くはない。
- 32) *Pieris rapae* モンシロチョウ 各地に普通
- 33) *Pieris melete* スジグロシロチョウ
 各地に普通。
- Familia Cretidae ウラギンシジミ科
- 34) *Euretis acuta* ウラギンシジミ
 各地に普通
- Familia Lybythoidea テングチョウ科
- 35) *Libythea celtis* テングチョウ
 各地に普通
- Familia Danaidae マダラチョウ科

- 36) *Caduga sita* アサギマグラ
 少い
 Familia Lycaenidae シジミチヨウ科
- 37) *Narathura japonica* ムラサキシジミ
 各地に普通
- 38) *Japonica lutea* アカシジミ
 次の記録がある。
 掛白峠 1958. 8. 24 青野 すずむし
- 39) *Japonica saepestriata* ウラナミアカシジミ
 次の記録がある。
 大佐山 1958. 8. 7 広瀬 すずむし
 前種と共に調査すればまだまだ採れる種である。
- 40) *Antigius attilia* ミズイロオナカシジミ
 谷地で採れる。
- 41) *Faonius saphirinus* ウラジロミドリシジミ 次の記録がある。
 永富 1958. 8. 7 青野 すずむし
- 42) *Faonius orientalis* オオミドリシジミ 各地で採れる。
- 43) *Faonius ultramarinus* ハヤシミドリシジミ
 次の記録がある。
 奥谷 1958. 6. 24 青野 すずむし
 市倉峠 〃 〃 〃
 大佐山 1958. 8. 7 広瀬 すずむし
- 44) *Rapula arata* トラフシジミ 各地で採れる。
- 45) *Ahlbergia ferrea* コツバメ 早春各地で採れる。
- 46) *Lycaena phlaeas* ベニシジメ 各地に普通
- 47) *Taraka hameda* コイシジミ
 各地で採れ、個体数もかなり多い。
- 48) *Lampides boeticus* ウラナミシジミ
 10月すぎから個体数が多くなる。
- 49) *Zizeeria maha* ヤマトシジミ 各地に普通
- 50) *Niphanda fusca* クロシジミ
 次の記録がある。
 市倉峠 1958. 8. 7 青野 すずむし
 大佐町 1958. 7. 23 広瀬 すずむし
- 51) *Maculinea teleius* ゴマンシジミ
 県下全体からみて稀な種に属すが、当地では次の記録があり、又偏北科学によれば御山に多いという。
 永富 1958. 8. 7 青野 すずむし
 大佐山 1958. 7. 23 広瀬 すずむし
- 52) *Celastrina arigiolus* ルリシジミ 各地に普通
- 53) *Everes argiades* ツバメシジミ 各地に普通
- 54) *Plchejus argus* ヒメシジミ

本種も県下では記録の少ない種である。

市毛峠 1958. 8. 7 青野 すずむし の記録がある。

Tamilia Nymphalidal タテハチヨウ科

55) *Argynnis paphia* ミドリヒヨウモン 各地に普通

56) *Argynnis anadymene* クモガタヒヨウモン

かなり少ない種である。

布瀬 1960. 5. 21 赤枝

布瀬 1961. 5. 赤枝 の記録がある。

57) *Danora sagana* メスグロヒヨウモン 各地に普通

58) *Fabriciana adippe* ウラギンヒヨウモン

雌山に多い(圃北科学)というが一般には少ない。

59) *Fabriciana nerippe* オオウラギンヒヨウモン

雌山に多い(圃北科学)というが一般には少ない。

60) *Argyronome laodice* ウラキンスジヒヨウモン あまり多くない。

61) *Argyreus hyperbius* ツマグロヒヨウモン

次の記録があるが稀である。

布瀬 1960. 8. 9 赤枝

布瀬 1962. 9. 24 赤枝

62) *Laloga canilla* イチモンジチヨウ 各地に普通

63) *Laloga glorifica* アサマイチモンジ

一般には前種より少ないが、山地帯では前種より多い所もある。例えば道後山等もそうであるが、当地でも雌山等は前種より多い。

64) *Neptis aceris* コミスジ 各地に普通

65) *Neptis fryeri* ホシミスジ

圃北では稀な種に属すが、次の記録がある。

大佐山 1958. 6. 24 青野 すずむし

66) *Araschnia burejana* サカハチチヨウ 各地に普通

67) *Polygonia c-aureum* キタテハ 各地に普通

68) *Dolygus c-aureum* シータテハ

圃北科学に記載があるが、採集地がないので一応疑問に思つたが、大佐中の標本の年に産地不明であるが、本種があるので町内に産する事はまちがいない。

69) *Kaniska canace* ルリタテハ 各地に普通

70) *Nymphalis xanthomelas* ヒオドシチヨウ やや少ない。

71) *Vanessa indica* アカタテハ

各地に普通

72) *Dichorragia nesimachus* スミナガシ

あまり多くない。

雌山 1958. 8. 7 青野 すずむし

布瀬 1961. 6. 赤枝 未発表

等の記録がある。

73) *Apatura ilia* コムラサキ

各地に普通

- 74) *Hestina japonica* ゴマダラチヨウ
あまり多くない。
- 75) *Sasakia charonda* オオムラサキ
少いが各地で採れる。布瀬においても1961年2頭採集した。
Familia Satyridal ジャノメチヨウ科
- 76) *Ypthima argus* ヒメウラナミジャノメ
各地に普通
- 77) *Minois dryas* ジャノメチヨウ
各地の草原でとれる。
- 78) *Lethe callipteris* ヒメキマダラヒカゲ
次の記録がある。
大佐山 1958. 6. 24 青野 すずむし
雌山 1958. 8. 7 青野 すずむし
- 79) *Lethe desa sicelis* ヒカゲチヨウ
各地に普通
- 80) *Lethe diane* クロヒカゲ
各地に普通
- 81) *Kirinia epaminondas* キマダラモドキ
比較的稀な本種も雌山には多く、確実に採集できる。
雌山 1958. 8. 7 青野 すずむし
雌山 1961. 8 赤枝 すずむし
- 82) *Neope goschkevitschii* キマダラヒカゲ
各地に普通
- 83) *Mycalasis gotama* ヒメジャノメ
各地に普通
- 84) *Mycalasis francisca* コジャノメ
森林地帯で採れる。

この他高橋君の目録によると上記の他、ヒヨウモンチヨウ、コヒヨウモン、ルーミスジジミ、ミスジチヨウ、クロツバメ等が上つているが前3種は明白な同定まちがいがあるし、後2種も同定に疑問が持たれるので本人に問い合わせしたが、何等の回答も得られなかつたので、この目録から除外した。なお、学名は原色日本蝶類幼虫大図鑑によつた。

参 考 文 献

- 雌山付近採集小記 青野 すずむし
Vol. 8. No. 3. 1958
- 大佐山採集記 青野 すずむし Vol. 8. No. 2. 1958
- 阿哲部東部の蝶相調査報告 広瀬 すずむし
Vol. 9. No. 2. 1959
- 大佐町産の蝶について 高橋 蘭北科学
1961 -- 68種の報告がある。

ナガサキアゲハ倉敷でついに記録される

近 藤 光 宏

本種 *papilio memnon thunbergii* SIEBOLD 1824 が四国、九州はもとより、本州においても山口で古く、広島、兵庫、東日本側でも鳥取、島根、大阪の記録、最近和歌山県下には各所に繁殖の傾向があること等、棲息を確認され、もしくは成虫を発見されて来たわけであるが、県下の記録は、本紙Vol. 1 号 10 に ix・18・1951 倉敷で目撃（山川東平氏）されたことのほか、Vol. 10 号 1 P 6（筆者）「ナガサキアゲハを追つて二年」の記にみられるより、今だ未知数とされており、同好者の間で関心をよせられていた。

今年（1962）8月10日倉敷市連島町宮之浦、連島山北面の山すそで、写真のように破損はしていたが、まぎれもなく本種1匹が記録された。採集者は、連島中学2年生三宅宗夫君で飛来したものを難なくとらえたようである。

本種はかなりの飛行力を持つており、この記録をもつて棲息しているとはいえないまでも、近県の分布状況からすればむしろ謎い位である。

ミカドアゲハと共に南方亜熱帯系の迷蝶として発見され土着した本種は、大型無尾型、モンキアゲハ、オオムラサキとともに三大巨蝶の一つである。雌雄の判別は非常に顕著で当個体の場合も、表は、翅は全部黒色・少し藍色光沢を帯びており、裏は、前翅基部に1個、後翅基部に4個の赤色斑を有している。

当地（F18）には、沢山のウンシウミカンにまじつて、本種の食餌とされているダイダイナンダイも家庭用としてかなり栽培されており、今後更に採集されるであろう。

この記録が、倉敷市内はもとより、県下においても初の記録であり、採集者に変わつて報告致した事である。なお本種標本は、倉敷昆虫館へ展示所蔵している。



医 療 法 人

重 井 病 院

倉 敷 市 幸 町

TEL 2975・3215

ジュウジ科植物を害するハバチ三種の発生状況

近藤光宏

ダイコン・カブ等ジュウジ科植物を害するハバチは、Tenthredinidae ハバチ科の中次の三種が知られている。

Athalia rosae japonensis Rolwer カブラバチ
Athalia japonica Klug ニホンカブラバチ
Athalia lugens infimata Marlatt セグロカブラバチ

筆者は1959年以降 Synphyta の採集を始めてから、次の記録をみました。

採集地	種名	カブラバチ		ニホンカブラバチ		セグロカブラバチ			
倉敷市連島町	1♀	iv. 9. 1960	1♂	iv. 22. 1961	1♀	iv. 3. 1960			
	1♀	viii. 26. 1961	3♂♂	iv. 23. 1962	1♀	iv. 8. 1962			
			4♀♀	1♂	iv. 24. 1960	4♀♀	9♂♂	iv. 9. 1960	
			5♀♀	2♂♂	iv. 26. 1960	2♀♀	3♂♂	iv. 13. 1960	
			1♀	1♂	v. 12. 1962	1♀		iv. 14. 1960	
			1♀		v. 15. 1960	1♀		iv. 15. 1962	
			1♀		v. 15. 1961	8♀♀	4♂♂	iv. 24. 1960	
				1♂	v. 17. 1960	5♀♀	4♂♂	iv. 26. 1960	
			1♀		v. 19. 1962	1♀		iv. 28. 1962	
			1♀		ix. 17. 1962	1♀		v. 8. 1961	
			1♀		x. 16. 1959			v. 11. 1960	
						1♀	1♂	v. 12. 1962	
							1♂	v. 25. 1961	
						1♀		vi. 28. 1962	
							1♂	viii. 2. 1960	
倉敷市旭町鶴形山	1♀	v. 8. 1960	1♂	v. 8. 1960					
倉敷市向山町向山			1♀	xii. 3. 1961					
都窪郡清音村黒田			1♂	v. 16. 1960			3♂♂	v. 16. 1960	
都窪郡山手村							1♂	vi. 22. 1959	
児島郡彦崎			2♀♀	v. 5. 1962			2♀♀	2♂♂	iv. 29. 1962
							1♀	v. 5. 1962	
総社市家漢				1♂	x. 29. 1961				
吉備郡美袋			2♀♀	iv. 29. 1962					
高梁市玉川町	1♀	v. 22. 1960	1♀	3♂♂	v. 14. 1961	1♀	1♂	v. 22. 1960	
				1♂	v. 22. 1960				
新見市井倉			4♀♀	2♂♂	v. 3. 1960	1♀		v. 3. 1960	
			1♀		v. 3. 1962	1♀		v. 3. 1962	
			2♀♀	1♂	v. 7. 1961				
			1♀	1♂	v. 13. 1962				
			1♀		viii. 4. 1961				
鳥取県日野郡黒坂						1♀		vii. 3. 1960	
鳥取県大山寺							1♂	vi. 26. 1960	
広島県宮島									
計		4 0	30 20			34 31		65	

以上の採集データは、三種を特に重点的に採集したわけではないが、一応発生状況を示すものとも考えられる。

これによると、県下主として倉敷付近ではカブラバチの発生は少なく、ニホンカブラバチ、およびセグロカブラバチの発生は多くなつて、これは広島県比婆郡比和町付近（新昆虫 Vol. 9 版 9 1956 年 8 月号 P 28~29 岩倉恵子「ジュウジバチ科の蔬菜を害するハバチの生態」）の発生状況とちがつている。

即ち広島県の比婆付近では、セグロカブラバチの発生は非常に少なく害も目立たないが、ニホンカブラバチおよびカブラバチの害が著しいと記されており興味深い。

おとしぶみ

天神山のオオトビサシガメ

古屋野 寛氏が1959年5月17日川上郡吹屋町天神山で採集せられたものの中に *I. syndus obscurus* Dallas オオトビサシガメ1♀がある。茶褐色で、色採は大してあてやかなほうではないが、体長は23mmあり、本邦のサシガメ科では、かなり大型のものとして知られている。本州、四国、九州の山地に産し、少いものではないが、県内での一分布記録として一応報告しておく。尚、冬期は成虫で越冬することが知られている。
(小野 洋)

県南のオオメカメムシ

Geocoris varius Uhler オオメカメムシは、頭部が短く、幅広いかなり特異な形態のナガカメムシで小型であるが、強い光沢を持った美麗種である。本州、四国、九州に産し、山地の雑草間で発見できるものであるが、県南部にもかなり広く分布しているものようで、次のような記録があるので報告しておく。

和気郡和気町 IV-19, 1959 1♂
 児島郡灘崎町タコラ山 VI-18, 1960 1♀
 (小野 洋)

上高地でカメムシ2種を採集する

1) ハートモンツノカメムシ
Sastragula sp.

XI・11・1962 lex 高山市平湯〜上高地間のクマザサの葉上で、手づかみ、生きながらえていたものか、越冬態勢にあつたのか、殆んど動かない。

2) トホンカメムシ *Lelia decarpunctata*
 Motschulsky

XI・11・1962 lex 高山市平湯クマザサの葉上で採集、日光はさしていたが、気温はかなり低い、付近には、4〜5日前の吹雪の残雪もみられた。

(近藤 光 宏)



倉敷昆虫館の開館規定

- 開館日 …… 毎週土曜日及び各月第2日曜日
- 時 間 …… 午後1時から午後5時迄
- 入 館 無 料

光学器械・めがね 志賀の昆虫採集用具

有限会社 平 田 光 学

岡山市中之町 27 TEL ② 5475

目次

重井 博	倉敷昆虫館の開館にあたって	1
小野 洋	倉敷昆虫館について	2
赤板 一弘	大佐町の蝶目録	3
近藤 光宏	ナガサキアゲハ倉敷について記録される	8
近藤 光宏	ジュウジ科植物を害するハバチ三種の発生状況	9
	・ おとしぶみ ・	
小野 洋	天神山のオオトビサシガメ	10
小野 洋	泉南のオホメカメムシ	10
近藤 光宏	上高地でカメムシ2種を採集する	10
	倉敷昆虫館開館規定	10
小野 洋	昆虫館開館風景	11
	会だより	12

を見て「力の親分だ！」と大変なさわぎようであつた。名簿を拝見すると、遠く東北や広島県尾道市などから足を運ばれた人もあるようで、来館者の数は夕刻まで減少することなく、なかなかの盛況であつた。

来館者の見方には一般にかなり似たような傾向が見受けられた。最初、程度の差こそあれ、いさゝか驚きの表情で館内を見わたし、やがて順路に従がつて一通り歩かれた後、一度外に出る。当館は御存知のようにビルの上階にあるので、眺望もまた捨てがたいものがあり、そこで休憩、落着かれて再び入館、今度は2回目を丹念に見ていかれるといった調子である。又中には2、3時間も頑張つて何回となく異常な熱心さで、今にも標本が溜けだしはしないかと思うほど、なめるようにじつと見ている小学生がいく人か見受けられたが、将来相当重症の患者に成長する可能性が高く、頼もしいものを感じた。隣りの研究室では、同好会への入会者の受付事務をしており、これも又かなり多忙を極めた模様であつた。

4時半頃一先閉館、当市衛生昆虫研究所顧問である岡大農業生物研究所の安江安宣先生、医学部の植原成一先生御夫妻をお迎えして、館長理事全員勢揃いして館前に並び記念撮影、続いて研究室で記念の懇談会を開いた。

自己紹介の後、衛生昆虫を中心とした興味深い有益なお話があり、一般昆虫について、標本の保存法、当館運営についてなど次々に話題続出。時折明るい笑いが室内にひびき、夜の更けるのも知らず、話はいつまでも尽きないようであつたが、最後に山岳、昆虫の生態などのスライドを見て閉会となつた。

この日、あたかも将来の発展を約束するかのようになり、最後迄まことに有意義で、なにかと恵れ、祝福に満たされた一日であつた。翌日4日の日曜日にも開館したが両日を通じての入館者は500名に達した。

(小野 洋)

☆ 会だより ☆

◎ 事務用移転について

倉敷昆虫同好会の事務所は、今まで御承知の如く岡山大学大原農研生物研究所吉虫部第2研究室内に置いていましたが、今回、倉敷昆虫館の誕生にあたりまして、事務所を倉敷昆虫館内に移転することになりました。従いまして今後は会宛への連絡、送金などはすべて同館内の事務所宛にお願いいたします。

移転先 倉敷市幸町 重井病院四階

倉敷昆虫館内倉敷昆虫同好会事務所

尚、本会本部は従前通り岡大農研吉虫部第2研究室内におきます。

◎ 原稿募集

機関誌“すずし”の原稿を2回ほど寄せ下さい。

最近少しばかり投稿数が減少したように思います。皆さまの機関誌ですので、大いに利用していただき、紙面をできるだけ活版の方に向うずめていただきたいと思ひます。昆虫に関するものであれば、何でも結構です。採集報告、“おとしぶみ”欄用短報等もどしどしお寄せ下さい。ささいな事でもこれらと思うものはすべて、本誌上に報告し記録として残すようにしましょう。

◎ 会費納入お願い

1962年も後僅かになりました。本年分会費300円(中学生200円)を未納の方は至急納入下さいませよう願ひいたします。又1963年分会費もできるだけ早い振込に前納をお願いします。